

## たばこの缶詰

私は煙草をのまない。生まれてこのかた煙草を口にくわえた事が一度も無い。

だが吸わなくとも、軍隊時代は平等に一日二・三本無償で支給される。貯めて父親に郵便小包で送り、又休暇に土産に持っていく、喜ばせた記憶が残っている。

外国航路の船員は、無税の煙草が買える。値段が半分以下だが出航間に渡され、日本国外で消費しなければならぬ。その煙草は缶詰になっている。銘柄はピース、五十本入りだった。

洋上は湿気が多い、紙箱入りだと、すぐ湿ってしまう。直径七・八センチ、高さ十センチ位、魚の缶詰と同じ大きさだが、簡単に開封出来る様になっている。

缶の回りには国内と同じデザインのリールが貼ってあり、免税品（この煙草は国外で消費し、日本国に持ち帰ってはならない）と注意書きがしてある。

主に外国航路の船員に渡されるが、外国を基地にしている漁船船員にも販売される。

私達船団を組んで、赤道直下で操業中の漁船船員も母船から買う事が出来た。私（局長と言われていた）が船員個々の申し込み数をまとめ、母船の売店でサインだけで購入して船に戻る。

あまり詳しい記憶が無いが、内地に帰港しても煙草が残っている船員が多い。調べられる事が無いから、自由に持ち帰ったのだろう。

代金は給料から差し引かれた。五十年前の淡い思い出である。

